

花と緑の銀行だより

165号 2007.9



キツリフネ(左)、ツリフネソウ(右) / 富山市八尾町

目次	・花と緑の提言.....2	・花壇づくり.....5
	・活動事例.....3	・写真コーナー.....6
	・花のアレンジメント.....4	・情報コーナー.....7
	・この人あり.....5	



花・緑・私の思い

社団法人富山県緑化造園土木協会

会長 橋本 荘八

今年の気候は、富山気象台開設以来記録的な異常気象ではないでしょうか。この冬、雪が降らない無積雪気象。除雪に従事していた人達には、除雪機械を購入、修理と万全の準備をしていたのに、大変な痛手となりました。一方、県や各市町村など除雪費が不用となり、住民は除雪による腰痛、転倒、骨折などの被害もなく、悲喜交々であったと思えば、6月からの梅雨は、長く記録的な日照不足、雨量不足と生物への影響も心配されます。梅雨が明け8月に入ると夏本番となり、これまた、猛暑日（35度以上）真夏日（30度以上）が14日、25日と8月として記録的なものとなり、雨もなく、植物の水管理、維持管理が大変な事となっています。地球環境の変化のひとつ、地球温暖化現象の影響なのかもしれません。

さて【花と緑】、植物を総称している言葉ですが、花とは、緑とは、と別々に捉えることになんとなく不思議さを感じます。花については、小さい頃から親、祖父母など大人から地に咲く花を見ては、きれい・可愛い・優しいなどと聞かされ、『人は優しく、純粹にいつも美しく、花のように生きなさい』と教えられる事も多いでしょう。しかし緑についてはたいして教えられる事もなく、林業、造園業など専門職に従事して初めて緑の大切さを学ぶようであります。小さいころから教わる、教わらないでは随分認識が違うように思います。

花と緑と人の係わりはどんなことから生まれて来たのでしょうか。人類は、安全、安心、美しい平和な暮らしを望み、それを文化として築き歴史とともに発展してきたと思います。その文化は信仰から始まっているとも言われ、日本では、神道、仏教に代表されその時々時代の文化をなしています。これら文化の中に花と緑が切っても切れない存在にあります。例えば生け花、茶道、絵画、建築、日本庭園、公園、石造美術などがあります。

花は、色々な所で使用されていますが、始めは、供花、献花としてお墓、仏像など仏教関係へのお

供え、お祈りに蓮の花を使用しました。そののち、山野草をはじめいろんな花材が栽培使用されるようになりました。

飛鳥・奈良時代ころから住宅敷地内に女性の手による花壇が作られ、室町時代には、将軍足利義満による、武家社会の荒々しい戦いと違った、平和と安らぎを願った立華の法が生まれ、生け花の始まりとなり、桃山時代には茶人千利休が茶道を確立し、茶花を生け、茶庭を創作し茶道にも花は欠かせない存在となりました。そのほか各種記念として贈答品としても使用され、広くどんなところにも使用されるのが花であると思います。

緑は、花ほど認識がないといえば良いのか地味な存在に思われます。信仰面から見ると、神木とも呼ばれ、万物全てに神が宿ると言う信仰から緑の樹木を神と崇め、いろんな神事の際の玉串奉納に榊を奉納することがあり、常磐木として生命力の強い「サカキ」を神の木「榊」として使用され現代も永く受け継がれています。それは、緑の神秘、包み込まれる様な安心感、安らぎ、平和な感覚を漂わせているように思われます。また、緑は現代に入ってから、環境汚染、地球温暖化などの環境問題が強く発言されてから多く取り沙汰されるようになってきたように思われます。

記録的な異常気象にも環境悪化の条件にも耐えて生きている姿を見て、小さいころより物の大切さ、生命と自然の大切さ、必要性を花と緑を通じて教育し、道路、公園、住宅、空き地など、あらゆる場所で観察しその尊さを認識させることが大切だと思います。

これらの事に日常的に関わる事によって、自然環境の復興・保全に繋がると思います。



栽培活動を通して、子供たち一人一人が輝くことを目指して

射水市立塚原小学校

教頭 宮崎 玉喜

1 学校花壇のあゆみ

花壇の活動を通して、子供たち一人一人が輝き、植物も輝くという願いをこめています。

「心豊かな子供の育成」を目指し、昭和60年5月PTA役員と教職員総出で、学校花壇を造成しました。やさしい心で美しい花と対話する子供たちの姿を期待して実践され、今日に至っています。

昭和60年以来、市花壇コンクール学校花壇部門や県の花壇コンクールに参加し、毎年好成績を残しています。

栽培委員会が中心となり、3年生以上の児童が苗植え、除草、水やりを行っています。夏休みも3名ずつの当番を決めて、世話をするなど自主性の伸長を図り、総合的な学習の時間にも位置づけ、詩や短歌や俳句を詠んだり、絵を描いたりしてかかわっています。

葉や花を押し葉にして葉をつくり、学習発表会の際に地域の人に配布しています。また、地域のグリーンキーパーの方の指導も受け、土づくりや育て方について学んでいます。



花壇に集まる昆虫に惹かれる子供、黙って雑草を取る子供、植物の名前を一つずつ覚えていく子供等の様々な姿があります。

宿根草と一年草の場所を区別して栽培しており、50種を超える宿根草は、季節によって咲く花が異なっています。春にはシャクヤク、アスチルベ、シラン、クリスマスローズなどが咲き、初夏にアガパンサス、タチアオイ、クガイソウ、クレオメなど、盛夏にはフロックス、トリトマ、モナルダ、パイナップルリリーなどが咲き競い、



秋にはシュウメイギク、ホトトギス、オミナエシ、モミジアオイなどが咲き、その季節のさわやかさを感じさせてくれる場所になっています。

2 特色ある活動

【花壇の命名】

今年度も、栽培委員会が、全校児童から学校花壇の名前を募集し、「きらKIRA花だん」と名付けました。

【全校集会で】

フレンドリー集会で、栽培委員会から、全校のみんなに、学校花壇に関するクイズや花の紹介を行っています。



【地域の方と】

地域の方が、もってきてくださったメダカ、ホテイアオイ、ヒツジグサなどの周りにも子供たちが来ています。



陰になり日向になつて、学校花壇を支えていただいている地域の方の存在は大きな力となっています。



【いのちを見つめる場】

校内写生大会の絶好の場所になっており、子供たちはたくさんの花を見つめ、そのいのちや美しさを感じながら、色や形で表現していく機会となっています。



また、生活科で虫をさがしたり、アウトドアクラブでネイチャーゲームを楽しんだりする場所になっています。

花のアレンジメントを始めるにあたっての 基本的な知識や技術 (その2)

(社)日本フラワーデザイナー協会

講師 松永千里

一般に何かを造形するとき、どんな作品にするかを決めてからとりかかりますが、花のアレンジメントにおいてもしかりで、どのようなデザインにするか考えた上で、一定の理論に基づいて進めていくときれいな作品ができます。そこで今回は、基本の三角形のデザイン (トライアングラー) の作品製作の手順を示す中で、この理論の一部を紹介します。

〈トライアングラー〉

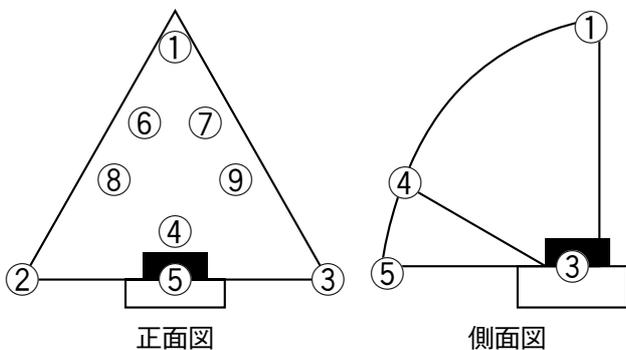
装飾的デザイン ※1

形態 シンメトリーの三角形 ※2

色彩 同系色 (同じ色の濃淡による配色で統一感が出る)

花材 スプレーカーネーション、アストランチア、ナデシコ、レザーリーフファン

構造 一焦点 ※3

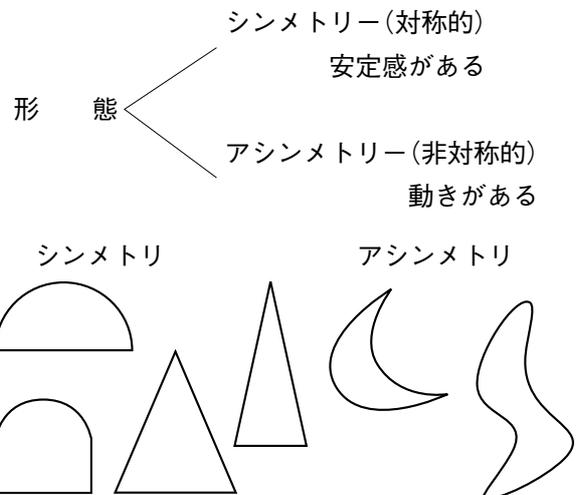


- (1) ①は、吸水性スポンジの後寄り 3分の2の中心線上に垂直に、②③は、花器の口に沿って水平に挿す。④ (F、P) は、①と⑤を結んだ線の下から4分の1に、⑤は、正面中央に花器の口に沿って水平に挿す。
- (2) ①②③を結んだ三角形のアウトライン上に⑥～⑨を挿す。
- (3) 背面、底辺、前面をレザーリーフファンで三角形のアウトラインをよりはっきりさせる。
- (4) 仕上げにアストランチアとナデシコをバランスよく挿す。

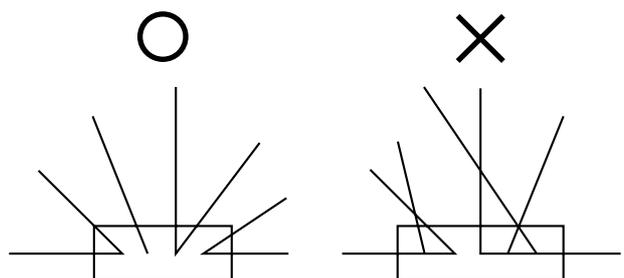
(^_^)σ アウトラインを明確にすると美しいと感じられる。

※1 作品 (器を使ったもの) には、目に見える部分 (形態・材質・色彩) と、目に見えない部分 (構造…おもに茎の状態) がある。植生を生かした自然らしいものにするか、デザイン重視の装飾的なものにするかで、それらの内容も異なる。

※2 ここでの形態とは、そのもののアウトラインから判断できる形のこと。これを明確にすると美しいと感じやすいので、はじめにアウトラインをカーネーションでとってから ((1)と(2))、間に花を埋めていく方法がやりやすい。

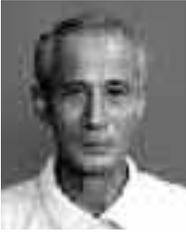


※3 一焦点…全ての植物素材の茎が一点に集中する基点のこと。花材を全て放射状に挿すため、小さいベースでもたくさんの花が入り、ボリュームあるアレンジができる。



花壇づくりに参加して

(財)花と緑の銀行上市支店柿沢地区頭取 久保富雄



私が30代の頃でしたか、菊の花にひかれ3年間程度菊作りをしておりました。仕事の都合で出来なくなり、定年(平成15年)になり再度作ってみたいと思い菊作りをしていましたところ、地域の方で、

何十年も花壇づくりをしてこられました方から、花と緑の銀行に入って頂けないかと言葉があり、「何事も、初心で」と承諾しました。

後日、町の花と緑の銀行の方々の招集があり、はじめて、テストピース(コンクリートの円柱)での花壇づくり研修会に参加させて頂きました。

先に枠作りから、土入れ、肥料を与え、花苗を植

え完成までの体験をさせて頂きました。先日地域の方々から、「公共施設の空き地にテストピースが有るから花壇を作れば良いのでは」と聞きまして、この施設にはこれまで50m²の花壇がありましたが、さらに施設の皆さんの協力も得まして新しく200m²の花壇を造成致しました。

この花壇は、小学生の通学路の下で、子供達や、地域の皆さんも、色別に咲き誇った花壇を見て頂いています。

今後、いろいろな研修講座に参加して、花づくりの知識や技術の習得に努め、身近の生活環境に目をやって、「育つ」と「育てる」の教訓を大切に、頑張っ

〈花壇づくり〉

いつまでも楽しめる宿根草の庭づくり(最終回)

「宿根草の花壇デザイン」

富山職藝学院 常勤講師 渡邊美保子

宿根草の庭づくりで一番大切なことは、根っこが育つ花壇のデザインを考えることにあります。地表から最低でも60cmは有機質と微生物のたっぷり入った土壌が必要です。といっても落とし穴を掘るように土を60cm掘り起こそうなんて考えてはいけませんよ。そんなことをしたら鉢底の穴がふさがれた巨大な植木鉢に宿根草を植えるようなものです。水がたまり、根が腐ってしまいます。どうやって地表よりも、高く土を盛るかというデザインを考えるほうが簡単です。太い丸太を寝かせるのもいいでしょうし、石を積むのもいいでしょう。そのまま畑の畝を作る要領で土盛りをしてもいいでしょう。ただし、この場合は土が流されないように放射状に根が張る植物で土留めをすることをおすすめします。

さて、土盛りのポイントですが、土を盛る前の地面は、決して耕さないことです。水が緩やかに流れるように足で踏み固め地面に水勾配をつけてから土を盛りましょう。この方法なら誰でも簡単に宿根草の寝床を作ることができます。地面を掘らずに土を盛る方法は、いったん雨が降ると水のたまりがちな富山の土壌で宿根草を栽培するのに適しています。

さて、次に大切なことは植物の組み合わせです。

基本となる考え方は、自然をお手本にするということです。自然を眺めてみますと、さまざまな種類の植物がバランスよく生育しています。人の手を借りたわけでもなく、水も肥料も与えられないのに、その環境を好む植物がいつのまにかグループをつくるように多くの生き物たちと共生しながら生きています。宿根草の庭も同じで、少量多品種を混ぜて植えることにより、植物だけではなく小さな生き物たちの住みかも生まれます。害虫がついても、大量発生を抑えることにもつながります。

では、どんな宿根草を選んだら良いのでしょうか？一つ目は耐寒性のあるもの。これは基本中の基本です。二つ目は同じ栽培条件で育つもの。そして三つ目は自分の好きなもの、これが一番大事です。また、宿根草の庭づくりが自分の性格が向いているかどうかかもポイントです。待つことを楽しめる人ならとてもすばらしい庭をデザインすることが出来ます。なにせ、苗を植えてから最低3年は宿根草を気長にコツコツと観察することを楽しめる人でないといけません。10年も続ければそれは立派なデザイナーになるでしょう。いつまでも楽しめる宿根草の庭づくりにぜひ挑戦してみてくださいね。(終わり)

平成19年度

富山県花のまちづくりコンクール 入賞花壇写真集

学校花壇部門 最優秀賞

富山市立四方小学校



幼稚園・保育所花壇部門 最優秀賞

富山市四方保育所 (社会福祉法人四方福祉会)



一般花壇部門 最優秀賞

砺波市東般若花と緑の推進協議会

(東般若農村公園内)



花の道部門 最優秀賞

高岡市成美校下花と緑の推進協議会

(成美小学校北側国道156号線沿い)



個人花壇部門 最優秀賞

砺波市 市山由美子



* 各部門の優秀賞、優良賞、努力賞、奨励賞の写真は「花と緑の銀行」のホームページをご覧ください。

花と緑のコース

平成19年度富山県花のまちづくりコンクール部門別審査結果

県内各支店を通じて応募のあった花壇について、7月下旬から8月上旬にかけて審査した結果、成績は次表の通りです。受賞された個人・団体の皆さんおめでとうございます。今後の一層の活躍を期待します。

なお、このコンクールの表彰式(最優秀賞、優秀賞のみ)は11月6日に開催される「花と緑の大会」で行います。

賞別	学校花壇		幼稚園・保育所花壇		一般花壇		花の道		個人花壇	
最優秀賞	富山市立	四方小学校	富山市	四方保育所	砺波市	東般若花と緑の推進協議会	高岡市	成美校下花と緑の推進協議会	砺波市	市山由美子
優秀賞	氷見市立	海峰小学校	富山市	杉原保育所	射水市	本江公民館	小矢部市	野菊の会	砺波市	宮野裕子
	射水市立	放生津小学校	高岡市	成美保育所	砺波市	油田花と緑の推進協議会	砺波市	鷹栖宮町町内会	砺波市	西嶋かな子
	高岡市立	成美小学校	射水市	小杉西部保育所	砺波市	東野尻花と緑の推進協議会				
					富山市	大沢野地域花と緑の推進協議会さるびあ園				
優良賞	高岡市立	南条小学校	砺波市	北部こども園	富山市	西大沢花壇愛好会	砺波市	高波花と緑の活動推進協議会		
	富山市立	大久保小学校	富山市	大広田保育所	南砺市	玉成花壇愛好会	富山市	大沢野・上大久保地区花いっぱいグループ		
	砺波市立	庄東小学校	砺波市	東部保育所	高岡市	東五位校下緑花推進協議会	富山市	八尾園ふれあい花壇		
	富山市立	大沢野小学校	砺波市	油田保育所	富山市	三郷フラワー愛好会	高岡市	立野栄町自治会花づくり会		
	射水市立	塚原小学校			氷見市	一勿花壇愛好会				
					高岡市	蔵野町花の愛好会				
努力賞	黒部市立	若栗小学校			南砺市	南砺市福野北部自治振興会			富山市	瀬川勝子
	黒部市立	生地小学校			入善町	花と緑の銀行入善支店桐山校下				
奨励賞	氷見市立	宇波小学校	氷見市	速川保育園	氷見市	吉滝花壇愛好会	南砺市	開発友の会	富山市	寺崎啓乃
	砺波市立	砺波北部小学校							射水市	瀬戸厚子
応募数		53		58		159		41		7

※応募数欄は、支店段階のコンクール応募数の集計値です。

お知らせ 第35回花と緑の大会開催について

平成19年度第35回花と緑の大会を下記の日程で開催します。頭取・グリーンキーパーの皆さんの出席要請人数を別途各支店に通知します。

1 期日 平成19年11月6日(火)

午後1時30分～16時

2 場所 富山市婦中ふれあい館

(富山市婦中町砂子田1-1 TEL076-465-3113)

富山市立速星中学校隣(右地図参照)

3 大会の内容

(1) 表彰式(県政功労、花と緑の銀行理事長表彰、富山県花のまちづくりコンクール表彰)

(2) 講演会

演題「日本の生活文化とガーデニング」

講師 国際日本文化センター研究部

教授 白幡洋三郎 先生



表紙・裏表紙写真提供/名畑清信(花総合センター部長)

表紙「キツリフネ(左)、ツリフネソウ(右)」: 本県の山麓湿性に広く分布(富山市八尾町)

裏表紙「コナギ」: 本県の水田地帯や池溝の湿地のいたるところに分布(富山市吉岡)



コナギ／富山市吉岡

花と緑の銀行だより 165号

発行日 平成19年9月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高道46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

